



看護学部FD委員:藤代知美 准教授

看護学部では、学生が主体的に学習に取り組み、適切に自己評価できるようになることを目指し、ループリックを作成しています。ループリックとは、学習課題と評価基準を定めたものです。全16の看護実習ループリックを作成するために、学部を挙げて、1年以上にわたって取り組んでおりますので、ご紹介したいと思います。

看護実習では、学修した知識と技術を統合し、目の前の対象者に看護を実践することが求められます。それぞれの学年、実習において、“何を”、“どの程度”目指すのか、それをループリックで“どのように表現するのか”、などということについて、ディスカッションを重ねてきました。その結果、看護実習のループリックは、4段階の評価基準で、各実習の特性に沿って作成することとしました。昨年は、一部の実習において、学生と教員がループリックを共有しながら、実習を行うことができました。学生からは、「自分の到達度がわかりやすかった。」、「他の実習との違いがわかりやすく、現在の実習で何が求められているのかわかりやすい。」という肯定的な評価をいただきました。一方で、「中間評価をするときに少しわかりにくかったが、教員と面接をして理解できた。」などと、改善が必要であることもわかりました。使用した教員からは、「共通の評価指標を用いて、どこまで到達しているかを学生とともに確認することができた。」、「学生が自分のことをどう捉え、学んでいくかを考えるのに役立った」、「ループリックを使うと、新任の先生も指導を行いやすそうだ。」などの声が聞かれました。

令和4年度は、さらに複数の実習において、ループリックを活用する予定にしています。教員と学生が協働し、主体的な学習を促進するループリックを作成していきたいと考えています。皆さんから、たくさんのご意見が寄せられることを期待しています。



fure-fure



学生の活動

【看護男子交流会】

責任者：3回生 徳永 旭さん



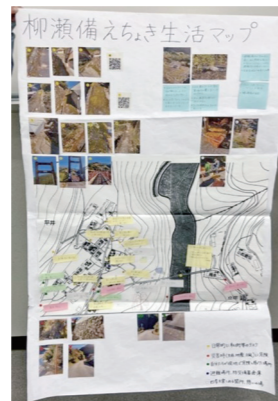
新型コロナウイルス感染症の感染拡大による活動制限が続き始め3年目となり、他学年の学生との交流機会はもとより、同学年での交流も十分にできていない状況が続いています。そこで、全員で顔を合わせ、スポーツを通して親睦を深めることで、より充実した大学生活を送れるように看護男子交流会を企画・実施しました。バレーボールを各試合ごとにチームを変えながら実施したことで、学年分け隔てなく、一人でも多くの人と話し、協力し合い楽しくかつ、絆を深めながら交流することができました。

第2回交流会についても企画し、より交流を深め、同じ看護師という夢にむかってお互いに士気を高め合いながら大学生活を送れるようにしていきたいと考えています。



【健援隊】

代表：3回生 三好美玖さん
2回生 河添陽菜さん



私たち健援隊は、高齢者や小児への健康推進活動を行っています。高齢者健康推進活動では、健康知識を含めた神池・柳瀬寄り、日々の血圧や体温を記録する健康チェック表、日常生活で危険な場所やヒヤリとする場面をマップに示した「柳瀬備えちき生活マップ」の作成を行ってきました。小児健康推進活動では、五台山保育園の子どもたちに熱中症に関するお便りの配布、自作の胎児モデルや絵本、成長過程のイラスト

を用いた成長に関する知識普及の動画を作成しています。新たな活動として、柳瀬地区の住民の方と災害時にライフラインが止まった時を想定し、防災知識を共有して防災備蓄品の紹介、防災備蓄品リストを作成する予定です。今年度は1回生12名の新しいメンバーが増えました。これからも地域の方々とともに健康推進活動を進めていきたいと思っています。



【ニュースレターの名前の意味】fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp



高知県立大学 看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi



U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi



■ 看護学研究科について

私が、看護学部を卒業した時代、日本において看護系の大学は11校しかありませんでした。現在、看護学部を備えている大学が274校、看護学の大学院の数も修士・博士前期課程188校、博士後期課程107校（2020年度調べ）になっております。時代は変わり、看護において自分のキャリアのために大学院で学ぶことは「ふつう」になりつつあります。今、本学の看護学部で学んでいる学生さんには、いち早くその感覚を身につけてもらい、近い、または、遠い将来に、自分のキャリアのため大学院で学ぶことが「ふつう」だと考える看護師さん、保健師さん、助産師さん、養護教諭さんに育って欲しいなと思っています。

そして、私たち教員の務めは、大学を巣立った学生さんが母校に戻ってきたくなるよう、魅力的な看護学研究科を作っていくことです。当研究科は、20年あまりの歴史の中で、領域やコースを拡充しながら現在に至っております。数年前からは、学内推薦枠を設け、卒業後すぐに大学院で学ぶこともできるようになりました。今後もいろいろな取り組みを行い、魅力的な看護学研究科を創っていきたくて考えております。



看護学部研究科長: 畦地博子 教授

■ 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会

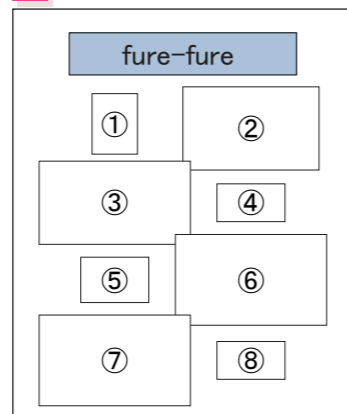
大会長: 大川宣容 教授

第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会をオンライン開催いたしました。本学術集会のテーマは、「看護シミュレーション教育の挑戦」としました。2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症拡大は、社会情勢を大きく変化させました。臨地実習の変更を余儀なくされ、新たな教育方法を取り入れる挑戦、学習方法を転換する挑戦、挑戦から生まれた可能性を社会に発信することなど、様々な挑戦を続けてきました。ICTの活用により、学習プロセスをも可視化できるようになり、AIを活用した教育の実践や、教育へのARやVRの活用など、教育の変化はめざましいものがあります。新しい時代の看護学教育に向けて、看護シミュレーション教育の限界を超え可能性を模索するヒントとなるように、また基礎教育のみでなく現任教育にも活用していけるように、学際的な企画、国際企画、シンポジウムなど多彩な企画を取り入れました。

シンポジウムでは、高知県立大学看護学部で学んだことを卒業生が発表してくださり、看護学生から看護師へのトランジションを支援するためのシミュレーション教育について考える機会をいただきました。また、在学生の皆さんからは県外の学生と一緒に、中高生に向けて「今、まさに学んでいること」を発表していただき、制約がある中での学びの工夫を共有していただきました。交流集会や一般演題では、新型コロナウイルス感染症拡大下でのシミュレーション教育活用に関する演題発表があり、本学からも4演題を発表しました。

オンライン開催期間（令和4年2月11日～3月6日）と、Live配信（令和4年2月19日）を設けることにより、オンラインの良さを駆使して準備と運営にあたり、活発な意見交換がなされました。オンライン開催でしたが、全国から312名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、サポートして下さった皆様にとって、これからの看護学教育を考える機会となっていれば幸いです。

表紙の写真



学年ごとの授業、演習風景

- ①② 1回生
- ③④ 2回生
- ⑤⑥ 3回生
- ⑦⑧ 4回生



■ 各学年の大学生活

■ 1回生 ■



今年度は多くの授業が対面で行われていますので、昨年度よりも賑やかな雰囲気なか1回生の新しい生活が始まりました。入学から少し経ち、1人暮らしや大学生活にも慣れてきた様子です。高校までの学び方との違いや正解のない問いに向き合うことにとまどいながらも、それぞれが講義や課題に真摯に取り組んでいます。また、6月からは専門的な知識を学ぶ講義の他に、学内での演習も始まりました。写真は感染予防に関する演習の1コマです。コロナ禍で自らの健康管理にも留意しながら、人々の健康を守ることにについて、講義で学んだ知識を実践に活用する方法を学んでいます。その他、サークルや立志社中などの課外活動への参加を通して、他学部の学生や地域の方々とも出会い、さまざまな経験を積み重ねています。

■ 2回生 ■



2回生は、8月末から9月に、病院で初めて患者さんを受け持つ、看護基盤実習に向け、日々講義や演習に取り組んでいます。1回生の時とは違い、医学的な知識を得る科目も多く、教科書や参考書を用いて専門的な学習をしています。写真は、輸液療法の演習の風景です。注射器や注射針、輸液チューブなどの扱いについて、繰り返し練習して身に付けています。患者さんに対し正確で安全な看護技術を提供することの重要性を学び、看護師としての責任感を培っています。

■ 3回生 ■



3回生前期は、1・2回生からの学修の積み重ねを経て、より専門的な科目の履修が多くなっています。昨年まではオンライン授業も多かったのですが、3回生の講義、演習は、感染対策に取り組みながら多くは対面で行われています。講義や演習をとおして、10月からの領域看護実習に向け、看護の対象となる人の理解や、看護技術、看護過程の展開について学んでいます。学生同士で具体的な援助場面を経験する学内演習では、教員に積極的に質問するなど、主体的に学ぶ姿勢がみられています。

3回生になると、将来の就職について考える機会が増えます。8月には、看護学部保健医療系就職ガイダンスを開催します。このガイダンスには、看護師、保健師、助産師、養護教諭として県内で活躍する卒業生が参加してくれます。3回生が自らの将来について向き合い、考えていく機会になると思います。3回生になって早3か月。3回生がそれぞれの未来に向けて、自ら課題をみつけて取り組む姿には、たくましさを感じられます。

■ 4回生 ■



大学生活最終年度となる4回生は、講義・実習、看護研究、就職活動、国家試験対策など多くのことに並行して取り組んでいます。講義では自分が興味・関心のある看護領域を選択する科目が多くなり、活発に討議し、学びを深めています。写真は心不全患者の看護について検討しているグループワークの様子です。このように今まで学んだ知識と技術を統合しながら、総合看護実習、看護管理実習、在宅看護実習に臨みます。さらに、看護研究ではグループで研究テーマを定め、研究手法を用いて看護の様々な現象を探求しています。また、5月からは本格的に採用試験がスタートし、ワークWork!!や教員のサポートを受けながら小論文や面接を繰り返し練習し、採用試験本番に向けて準備をしています。4回生は、初めてづくしの多重課題に取り組む中で、自らの看護観を形作り、将来に向けて着実に歩んでいます。